

315

神道天理教萬歲

大日本帝國萬歲

天理教歌

非賣品

014428-000-5

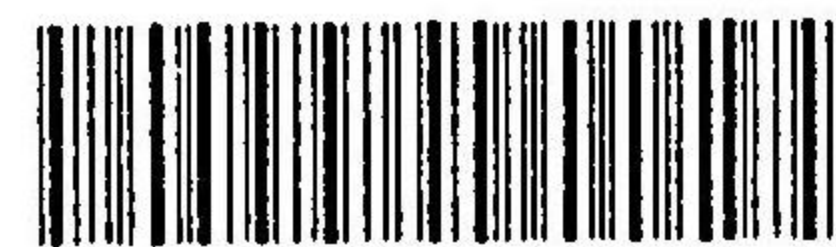
特67-315

天理教歌

中野 友治郎 / 著

M28

ABB-0806



親の親尋ねて見まは諾冊の
神の身末と思ひしらるれ



神の始りて天地開給ふ國常立の神面足の神此二柱の神と神さま御
相談ましくして天地開きし其中に神の造らせ給ふ人々や生立來る草
木まで神の御守護と譯しらば佛の身子とは心間違世界の日止は皆神
の子なり天地開きし神は日止の親神國始めて外國まで日々大恩をば
家なる者ゆへにこの道理を思ひなば百々八十國の其中にも日本は
神の社なり御國の皇上は神の御子我々に至まで神の血縁たふとき御
國に生れて神の御恩を知らぬ人々こそあわれ憐なり親に孝なき不孝
もの心をみおきて教祖の教へさまもれや守れ諸人神の仰をまゝたま

ふ日止の體は神の貨物神より借たるからだに痛惱があらふ筈はなひ
なれども人びんには八ツの心得違の道がある此心得違を直さにやな
らね會客可愛照恨に腹立欲に口慢の理此八ツのほこ理を打拂ふて敬
神愛國の道をとり神と皇上との大恩をばわすれぞ守れやわすれまじ
盡せやつくせやおみ民よ日柄方位を忌むよりも天地任せの道を聞け
信じて厚く敬えよ踏地の神の御恩を知らぬ人は是をあわれと教祖の神
の教へを導き給ふ教へを微塵も動きなく行よ油斷わ我身の大敵ぞ後
悔先にたぐぬぞや邪説の教へに迷ふなよ佛教や耶を教もろくの教
えは更にむよふぞや砂糖とみへはもろひねぞいつしか馴みよあの
道を去りて歸へせよ玉鋒の神の誠の正き道に昔の神代が巡り來て余
所の教へは春の雪をんだそんじやのごふ玉の教へは御國にはびこれ

ども日本の大神の御光にて今吹拂ある神風にて後方なく消うせにけ
る大和魂あるものは心を定め動じて天地の道理を聞譯て盡きにや
なるまひ國の爲盡きにやなるまひ人の爲盡きにやなるまひ君の爲神
と皇上との御惠みの信の教えは天理教教えを聞心を入かゑよ神の心
は荒磯の浪も静かに四方の海納る御世のためしにて我御國を神國と
とら浪打よせくるとも豊葦原の大和の國なる正屋敷に山をくぞして
教祖の御墓を造うは世にためしなき余所の教えを悉く打拂日本の教
えを輝やかし皇道に基き神式に致し神代復古に立歸り元の御國の教
に立歸り天理の教をきそとなし我國こゆふの神道を天地のあらん限
りまで勵めやはげめ皇國人仰げやまなべ天理教神の御國でありなめ
ら神の心に従はざるは神敵ぞ皇上の心に順はざるは朝敵ぞ天理の教

よ
を信じたば祖先に忠と國に愛心眞の幸福をえるべし唯一心にあがめ

明治二十八年三月三十日印刷
同年四月十日出版

京都府下丹波國北桑田郡知井村字北四拾五番戸平民
天理教斯道會第百七拾四號

教導職

著作兼
發行者

中野友治郎

福井縣下若狹國遠敷郡小濱町小濱字龍田七拾四番地

印刷人

武田清左衛門

